業務改革の推進に向けて 基幹業務システムをクラウド上に再構築

2モデルの「absonne（アブソンヌ）」でコスト効率と可用性を追求

背景

業務改革の一環として、メインフレーム上の基幹業務システムをクラウドITインフラ上に再構築する。新基幹業務システムの一般管理システムではコスト効率と構築スピードを、営業生産管理システムでは可用性を重視する。

ソリューション

新基幹業務システムのクラウドITインフラとして、新日鉄ソリューションズの「absonne」を選択する。absonneのスタンダードモデルでコスト効率と構築スピードを、同エンタープライズモデルで可用性を追求する。

今後の展開

スタンダードモデルを採用した一部の新システムが計画通り2012年4月に稼働を開始した。現在、エンタープライズモデルを採用したシステムを含む全体の構築を進めている。2014年4月には新基幹業務システムを全面稼働させる。

新日鐵化学株式会社
業務システムプロジェクト
参事
戸早 孝之氏

新日鐵化学株式会社
業務システムプロジェクト
参事
三浦 孝廣氏

新日鐵化学
Nippon Steel Chemical Group

新日鐵化学株式会社
本社：東京都千代田区外神田4-14-1
設立：1956年
資本金：50億円（2012年3月31日現在）
売上高：連結1969億円（2012年3月期）
従業員数：801名（2012年3月31日現在）

あるべき姿の業務を目指して、基幹業務システムの再構築を検討

「素材を技術し、未来を拓く」を基本理念に、携帯電話向け新素材など多数の革新的な製品を生み出している新日鐵化学。同社は2020年に達成すべき長期経営目標である「グランドデザイン」を策定し、その実現に向けて業務改革を推進している。

新日鐵化学が業務改革の一環として、基幹業務システムの再構築を検討したのは2010年秋ごろである。同システムはメインフレーム上で稼働しているが、多品種少量生産の事業に合わない、法改正対応の改修を実施しにくい、などの課題があった。その対策として同社は、新基幹業務システムをクラウドITインフラサービス上に再構築する計画を立てる。新基幹業務システムは大きく分けて、生産・販売・原料購入を支援する営業生産管理システムと、会計・購買・人事を支援する一般管理システムから成る。

ITインフラの異なる要件を、2モデルのabsonneによって追求

新基幹業務システムで利用するクラウドITインフラサービスには、二つの異なる要件があった。営業生産管理システムでは高い可用性を、一般管理システムではコスト効率をそれぞれ求めた。さらに、一部の一般管理システムを、他のシステムより1年早く稼働させる。新日鐵化学は、これらの要件を満たすクラウドITインフラサービスとして新日鉄ソリューションズ（NSSOL）の「absonne」を選択する。

absonneには、標準構成化・メニュー化・定額化を追求し、短期間でITインフラを用意するスタンダードモデルと、高い可用性などの要件を持つITインフラを個別対応で実現するエンタープライズモデルがある。一般管理システムには主にスタンダードモデルを、営業生産管理システムにはエンタープライズモデルを採用した。

一部の新システムが計画通り稼働、全体は2ステップで再構築

新基幹業務システム再構築プロジェクトは、2011年4月から始まった。absonneのスタンダードモデル上で早期稼働を目指した一部の一般管理システムは、計画通り2012年4月から運用を開始している。従来に比べて性能が大幅に向上した。

現在は、他のすべての一般管理システムおよび営業生産管理システムの構築が行われているところだ。開発するシステムの数が多いため、構築プロジェクトは「ステップ1（2013年3月末に完了）」と、「ステップ2（2014年3月末に完了）」の二つに分かれている。各ステップはそれぞれ異なる事業領域のシステムを対象にしている。いずれも新基幹業務システムの完成によって、インフラコストが2〜3割減るほか、在庫削減、リードタイム短縮などが実現。事業競争力が大幅に強化できる見込みである。

Key to Success

新日鐵化学が、基幹業務システムの再構築で目指しているのは、業務のやり方を抜本的に見直し、事業の競争力を強化することである。同社は「業務システムプロジェクト」という常設の組織を設立して、再構築を進めている。

業務システムプロジェクト 参事の戸早孝之氏は「あるべき姿の業務を明らかにし、それを実現するシステムを作ることに活動の主眼を置いています」と語る。

その新基幹業務システムのITインフラとして新日鐵化学が採用したのが、新日鉄ソリューションズ（NSSOL）のクラウドITインフラサービス「absonne（アブソンヌ）」である。

業務システムプロジェクト 参事の三浦孝廣氏は、「当社は基幹業務システムをメインフレーム上に構築しており、運用を外部委託しています。クラウドITインフラサービスを採用することで、初期投資を抑えて専門家による運用体制を維持できます」と語る。

absonneには、スタンダードモデルとエンタープライズモデルがあり、それぞれ異なる要件を満たすことができる点も大きな利点だった。

スタンダードモデルは、仮想化技術をベースにしたクラウドITインフラサービスである。標準構成化・メニュー化・定額化を追求し、短期間でITインフラを配備できる。そこで、コスト効率や構築スピードを優先する一般管理システム、および開発・検証環境に採用した。

エンタープライズモデルは、高可用性のような要件を個別対応で実現するクラウドITインフラサービスである。24時間365日の稼働が必要な営業生産管理システムやインフラ共通機能に採用した。

absonneを採用した成果はさっそく表れている。一般管理システムのうち、固定資産管理および人事システムは他のシステムより1年早い稼働を計画していた。NSSOLは、同システムを構築する際、absonneスタンダードモデルの特徴を生かして、ITインフラの設計から引き渡しまでを約1カ月半で行い、プロジェクトの進捗を早めた。

スタンダードモデルで進捗早める システムの安定性と性能も十分

NSSOLのエンジニアに対する評価は高い。戸早氏は「ITのプロフェッショナルとしての意識が非常に強く、安心して仕事を任せることができます」と語る。

三浦氏は「ミドルウエアに関する知見が豊富で、アプリケーションベンダーにも多数の情報を提供してプロジェクトを支援しました」と語る。

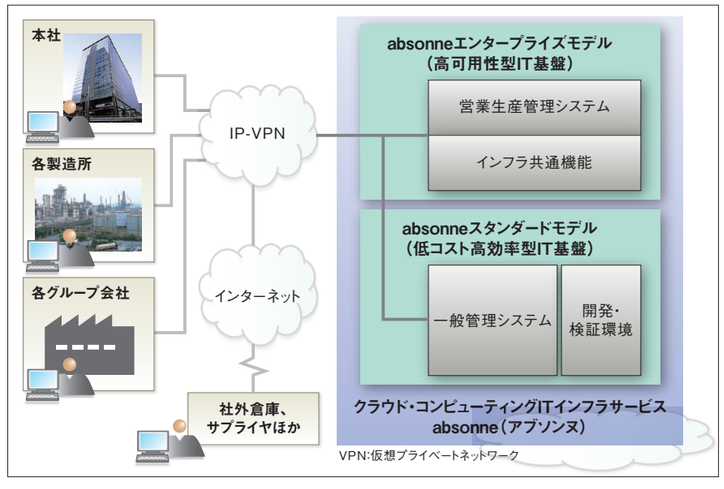
2012年4月から稼働した固定資産管理および人事システムに関する満足度は高い。「トラブルはなく、性能も大幅に上がっています」（戸早氏）。

ステップ1および同2の各プロジェクトが終わり、新基幹業務システムが本格稼働すれば、さらに大きな成果が期待できる。インフラコスト削減のほか、リードタイム短縮などによる事業競争力の強化が実現する見込みだ。

NSSOLに対する今後の期待は高い。三浦氏は「NSSOLはデータセンターを含め、各種事業を総合的に展開しています。常に新しいデータセンターの活用を検討していきます」と述べる。

戸早氏は「新基幹業務システムを完成させたあとは、情報系システムを構築します。その際もNSSOLの提案力に期待しています」と語る。

■新日鐵化学がクラウドITインフラサービス上に再構築している新基幹業務システムの概要



■コアテクノロジー
クラウド・コンピューティング、absonne（アブソンヌ）、仮想化、Windows

■システム概要
●クラウドサービス：absonne（アブソンヌ）スタンダードモデル、同エンタープライズモデル
●アプリケーション：MCFrame、COMPANY
●ネットワーク：IP-VPN